

「守り継ごう」ふるさとの農地

組織名 へき地域資源環境保全会

位置: 長門市日置

対象面積: 284.7ha

◆ 地域の現状等

当地区は、昭和46年度から圃場整備事業に着手し、平成10年度に終了しました。地区内の農地約600ha に対し整備された圃場は532ha におよんでいます。しかしながら、着手時点から考えるとすでに40年の歳月が経過し、初期に整備された圃場では、用排水路の老朽化が進み、破損や漏水が各所に見られるようになっていきます。加えて、農家の高齢化、過疎化の現象は、深刻となっています。このような現状の中、平成19年度から取り組んだ本事業は、農地を守り継ぐためには、非常に有効な手段として喜ばれています。

◆ 活動内容等

日置地区の中心部を流れる掛淵川水系の19堰に所属する284.7ha を本事業の対象地区としています。主たる活動内容は、ハード面で未舗装の農道整備と用排水路の破損及び漏水箇所の修復、ソフト面で小中学生の農業体験や生態系調査、用排水路の清掃活動です。特にハード面の事業は、業者に発注しています。



◆ 効果

当初は、この事業の趣旨が、一般農家に浸透せず基礎部分の共同活動と誘導部分の向上活動のつながりが理解できないことも多々ありましたが、4年間が経過し修復箇所も150箇所に及ぶようになり、高齢化、過疎化現象にともない「もう自分たちでは無理だ」という思いから本事業への関心も高まってきました。また、小中学生の農業体験は、学校が食育という観点から食べ物や勤労の大切さ、生命体の循環ということを教育目標にすえて指導していただいたため、子どもの農業環境への意識は、高まってきたと思われまます。

◆ 将来の展望

現在の農村環境を見るにつけ、失望と不安の繰り返しのようです。ふるさとに夢があり希望があり、近い将来子ども達がこのふるさとへ帰ってきてくれるよう、農村を守り、農地を守り継いでいくことは、現代を生きる私たちの責任であることは言うまでもありません。そのためには、このよう農村支援の事業は欠かせません。「秋になると、黄金色に輝く日置平野は、すばらしい」といって、この地に住まいを求めた人もいます。本事業を有効活用し、田舎を守って行きたいものです。

花蓮の里



かわらちいきしげんほぜんかい
組織名 河原地域資源保全会

位置:長門市油谷河原 対象面積: 67ha

「農地・水保全管理支払交付金」について思う

5年前は、2m近いセイタカアワダチ草の放棄田があり、長い畦畔には小笹と雑木が茂っていたこの地域で、なんとか昔のきれいな水の流れる自然豊かな農村にしたいとの思いで、保全会を立ち上げて地域のみんなで農業者任せにするのではなく、みんなで自分たちの住む環境を良くしていこうと取り組んできました。

今では、みんなが保全会の取り組みに感謝され、要望なども出され、老人から子供達も積極的に参加され、地域の中心的存在になって来ています。

放棄田や畦畔にはコスモスが咲いたり・花蓮がきれいな花を咲かせて多くの人々が朝・夕の散歩道にしておられ、健康増進の一助にもなり、川にはメダカ・はや・うなぎがもどってきて、田んぼにはどじょう・タニシ・平家ホタルも見られるようになり、地域のみんながわいわいがやがやと話しながら作業したり、集会をするようになり八幡宮のお祭りも大変にぎやかになってきました。高齢者が増えていく現状ですが、この取り組みが農村地域の活性化になくってはならないものになっています。

今、農村に住んでいる人たちを励まし、後継者を育てていくにはこの事業を長く継続していくことが大切であり、また日本の農業をまもっていく道ではないかと思えます。より多くの地域でこの事業に取り組み、地域ぐるみでの連帯を深め支えあっていくためにもみんなでこの事業の継続を訴えていっていただきたいと思えます。



保全会のすばらしさを長門市全域に伝えていこう！

組織名 おさきちいきしげんほぜんかい
尾崎地域資源保全会

位置： 長門市油谷伊上

対象面積： 13.6ha

◆ 地域の現状等

当地域は平成16年度に圃場整備事業が完了しました。その時点では生産施設の著しい老朽化は発生していないものの、地域住民の高齢化が進んでおり、圃場や生産施設の保全が将来にわたり十分にできるかどうか課題となっていました。そこで平成19年度よりこの対策を利用して、農家、非農家21名で保全会を作り圃場や生産施設の保全に取り組んでいます。



◆ 活動内容等

尾崎地区水利組合が上稗田水系と神手ヶ迫水系を主体に管理し、認定農業者を中心に7名の農業者が農地を主体に管理するなど、それぞれ連携して農地・水向上活動を実施しています。又、地域の環境美化を守るため、自治会も加わり農村環境向上活動を実施しています。



◆ 効果

保全会設立当初は、構成員21名中70歳以上の高齢者が16名(76%)という状況であり、活動参加率が相当低くなるのではと懸念していましたが、4年間の実績をみると、予想を上回る参加がありました。地域全体で環境を守っていこうとする意識が高まったのではないかと思います。



◆ 将来の展望

長門市油谷伊上地域では基盤整備圃場が146.1haありますが、保全会の対象面積は13.6ha(9.3%)にすぎません。今後は伊上地域全体に保全会活動を広めて行きたいと思います。又、長門市内には2300haの基盤整備圃場がありますので、長門市全域に保全会のすばらしさを伝えていけたらいいなと思っています。



「むこおつ」の農地・資源を地域で守ろう！

組織名 ほんごうちいきしげんほぜんかい
本郷地域資源保全会

位置： 長門市油谷向津具

対象面積： 20ha

◆ 地域の現状等

当地は半島の中央部に位置し、唯一の平野部にあり、一部で圃場整備が実施されているが、殆どが不整形な未整備田です。現在、他地区と同様に地域の過疎、高齢化は深刻な課題ですが、平成19年度より、この対策を有効に利用して農家、非農家を含め連携をとりながら、地域保全に取り組んでいます。

◆ 活動内容等

土地改良区が本郷川水系を主体に管理するなど、それぞれ連携して農地・水向上活動を実施しています。また、自治会、老人会、小学校が連携して農業体験するなど、農村環境向上活動を実施しています。



◆ 効果

最初は土地改良区役員で取り組みを検討し、参加を決定したものの、地域の理解が得られるか不安であった。しかし、自治会や老人会、また小学校の子供達など多数の方々の参加をいただき、段々と環境にやさしい農業への取組意識が高まってきたのではないかと考えています。この対策も5年目となり、地域住民の環境に対する意識は向上しており、子どもたちも水の大切さを実体験から学ぶなど効果が得られています。

◆ 将来の展望

今後、本対策で培った地域の環境保全に対する意識を持続的に次世代に継承することができればいいと考えています。特に、課題である遊休農地の発生防止活動、また、開水路の泥上げ等を定期的実施するとともに、コスモス等による景観づくりを継続して行きたいと思っています。

農地・環境保全が地区農業の未来を約束する

組織名 東後畑柵田農地資源保全会

位置：長門市油谷後畑 対象面積： 40ha

◆ 地域の現状等

本地域は日本柵田百選に選ばれた美しい景観で、特に漁火が浮かぶ夕暮れの日本海は芸術的な美しさがある。しかし、柵田は水路、農道が未整備で耕作に大変苦慮している。会員数は23人、平均年齢は67才で活動には勤労者もおり、難しい面もあるが全員協力して農地保全、環境保全をして農地の耕作が継続出来る様に事業に取り組んでいる。

◆ 活動内容等

農地、溜池の修理を行い、農道舗装や路肩補強を行っている。企業のボランティア活動を引き受けている。水路の復旧には手をつけていない。



◆ 効果

農道の路肩補強や拡幅、舗装により軽四の通行がスムーズになり困っていた部分の解消にやっと手が入られた現状である。また畦畔の復旧、溜池堤防の修理など施設の老朽化しているので復旧工事が必要である。

企業ボランティアは毎年来てもらえるようになった。

◆ 将来の展望

柵田百選の維持に全力で取り組む。

地区内の資源維持管理が出来れば、水田の耕作が行い易くなるようになれば経営の消力化につながり目的達成が図れる。

「未来に夢」のもてる地域にしよう！

かわらおきしげんほぜんかい
組織名 河原沖資源保全会

位置:長門市深川湯本河原

対象面積:26.0ha

◆ 地域の現状等

平成18年度保全会の実験事業で営農組合を主体として1年間活動し、翌年から保全会の本活動を実施してきました。高齢化が進み農地の保全・管理が非常に難しくなっています。

そこで、この対策を有効活用して保全会会員・地域との連携を強化しながら、地域全体の農地・水等の環境保全に取り組んでいます。

◆ 活動内容等

岩本会長を中心に役員会で活動内容を確認し、会員・地域の方々の協力を得ながら活動しています。地域内を流れる義隆水系と四防水系を中心とした、水田地帯の畦畔及び水路の草刈り・泥上げ等地域全体の取組として活動しています。また、自治会と環境保全、婦人会と花植えによる環境美化に取り組む農村環境向上活動を実施しています。



◆ 効果

最初は、「何をどの様にすれば、この活動が実施できるのか。また完了できるのか」

大変不安もあり苦労しました。活動を重ねる内に活動内容、効果等が会員の中に浸透し、作業実施にあたっては会員も自主的に作業ができ効率も良くなりました。この活動をすることで地域全体の問題として農村環境の整備・保全の必要性について関心が高まってきたのではないかと思います。

◆ 将来の展望

今後も高齢化・過疎化が進んでいくなかで地域全体の問題として、自治会・婦人会・老人会・子供会等と協力し農業基盤の整備・保全、環境保護・美化を実施、さらに地域全体の活性化に役立つ活動へと発展し継続することで未来に夢のもてる地域にしたいと思っています。

集落民の助け合いで“安心安田の郷”づくり！

組織名 あんだちいきしげんほぜんかい
安田地域資源保全会

位置： 長門市俵山

対象面積： 30.8h

◆ 地域の現状等

当地区は2集落で構成した地域資源保全会ですが、圃場整備後20年余り経過し高齢化、過疎化の進行が地域の深刻な問題となっています。平成19年度よりこの対策を有効に利用して、農業者、自治会員、女性部と連携をとりながら地域保全に取り組んでいます。

◆ 活動内容等

安田川水系の各水利関係者が主体となって水路、農道、農地等を管理していますが、それぞれ連携し合って農地・水向上活動を実施しています。また、自治会、JA 女性部、女性部と連携し地域の環境、美化を守るための農村環境向上活動や都市住民との交流活動を実施しています。営農活動として JA 長門大津農協の特別栽培「穂垂米」栽培にも取り組んでいます。



◆ 効果

本事業の取り組みにより集落民の共同作業等の積極的な参加に繋がってきている。また、共同作業等を通じて水稲の自己完結型農業から効率的な共同作業に移行の機運が芽生えてきている。水田オーナー制度導入による都市住民との交流が深まり女性部の活気が出てきており、ソバ栽培からコンニャク栽培にも取り組むこととなった。

◆ 将来の展望

山間棚田地帯で最も苦痛な農作業は畦畔、山林境の有害獣電気柵周辺等の草刈り作業や用排水路の土砂除去作業等です。困難な作業は集落全員で協力し合い、水稲作の機械作業は可能な限り共同化をめざすことが農地を守り集落の融和を保ち、集落民の生きがいにもなると本事業を通じて実感しています。事業の継続により定年退職帰農者も迎えることのできる受け入れ体制作りを進めるとともに、集落民が楽しみながら活動、生活が持続できる安心安田の郷づくりをめざします。

ほたる舞う美しい農村環境をいつまでも

上政地域資源保全会（かんまさちいきしげんほぜんかい）

長門市俵山 対象面積 23.4ha

・ 地域の現状等

俵山温泉の上流、木屋川の最上流に位置し、山すそに 20 戸あまりの農家が点在している典型的な農村集落である。少子高齢化による過疎化が進行しているが、担い手による受委託の拡大で農地を維持しているのが現状だ。ほ場整備は昭和 50 年代の団体営事業で早期に完成し、その区域を対象としてこの事業に取り組んでいる。用水は木屋川の豊富な水でまかなわれているため干ばつの被害は少ない。ただ、いのししや鹿の被害が甚大で、ほ場の周辺は全体が防護柵に被われている。



・ 活動内容等

組織には、営農組合のほか自治会、子ども会、婦人会も加入し、集落をあげて環境美化に取り組んでいる。また、都市住民との交流も盛んで、サツマイモや水田のオーナー制を実施しており、そのつど多くの人たちが集落にやってくる。農作業に汗を流したり、新鮮でおいしい農産物に舌鼓を打っている。景観対策としては、コスモスやそばの植え付けのほか、国体開催に向けて推奨花の育成にも取り組んでいる。この事業では、水路や農道の修繕を優先順位を決めて実施している。また、地区民総出の草刈作業のほか、役員による点検により美しい環境の維持に努めている。

・ 効果

集落に住む人の顔や名前、勤め先まで誰もが知っているような結束の固い集落であるが、それだけに封建的であったともいえる。この事業で話し合いを持つ機会が増え、老若男女が自己主張できることで、集落の方向性に変化が見られてきた。

また、完成後年数を経過した農道や水路の補修がほぼ完成し、各農業者が将来の農業経営に対する不安をやわらげることができた。

・ 将来の展望

高齢化による過疎化は間違いなく進行する。やがて農業ができない世帯も増えてこよう。そのときに耕作放棄地をできるだけ少なくできるように協力体制を整えておくことが必要だ。都市農村交流の継続で、子どもたちに農業の魅力を理解させ、ふるさとに誇りを持たせるよう仕向けるとともに、営農組織の強化に取り組んでいかなければならない。

みんなで地域を守っていこう

組織名 さわえちいきしげんほぜんかい
沢江地域資源保全会

位置：長門市三隅下沢江 対象面積： 13.9ha

◆ 地域の現状等

農家戸数17戸、2戸の専業農家と営農組合で集落の農地を守っている。
昭和60年圃場整備完了。全部柵田で法面も高い所は4m 以上の所も多い。高齢化、過疎化が進み、水路管理、当番も難しくなりつつあり、遊休田は景観作物の植栽をしている。



◆ 活動内容等

3つのため池からの取水で、農道法面の水路にコンクリートを張り、草刈りの軽減に務め、遊休田には子供会、老人会、自治会と景観作物の植付け。柵田の為、農道からの進入路をコンクリート張りにして出入りの際のスリップ事故による転倒防止対策を講じている。ため池の保守、点検活動も大事な仕事。

◆ 効果

共同活動に資金が使えるので小さな修理、個人の要望があった箇所でも今まで気が付かなかった事が、この事業に取り組んでからみんなが気をつけて見る様になり、水路、農道の整備が出来た。

◆ 将来の展望

今後も自治会等、地域の協力を得て農家だけの農地では無く、地域の保全の為の農地として自治会と協力して事業に取り組みたい。

きめ細かな共同活動で、集落機能を守ろう

とどろくちいきしげんほぜんかい
組織名 兎渡谷地域資源保全会

位置:長門市三隅上兎渡谷集落

対象面積:19.5ha

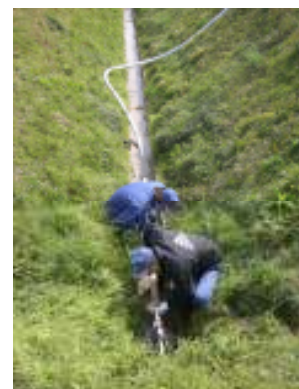
◆ 地域の現状等

集落の高齢化・担い手不足は深刻で、農用地を健全に維持・管理することが困難な状況にある。集落機能の維持については、個人の力だけでは限界があることから、集落全体で補完し合う仕組み作りが求められている。

◆ 活動内容等

・農業施設の維持補修では、草刈りに伴う労力軽減として防草シートを活用、消防ポンプを利用した開水路の土砂除き、又、水路法面の初期補修を実施している。

・施設への植栽として集落内に2ヶ所花壇を設置している。



◆ 効果

・農用地、農業施設等の維持・管理を共同活動で行うことが可能になったため、効率的な作業実施や高齢者の負担軽減となり、災害等不測の事態にも対応可能となった。

・農業者だけでなく、自治会全体で計画・実践を行うため、それぞれの役割に合った、きめ細かな集落機能の維持活動が可能となった。

◆ 将来の展望

一集落一農場(集落完結型)を目指すと共に、そのベースとなる自治会組織活動との連携も強化していく。

みんなの力でより良い集落を

組織名 上ゲ地域資源保全会

位置： 長門市三隅下 対象面積： 20.0ha

◆ 地域の現状等

当地区は、川がなく昔から早魃に苦しんだ結果、先祖は新旧両堤を設立し延長3キロメートルに及ぶ開水路を有し、野猪被害も多く20ha 農地の保全管理に過労、苦勞してきました。以前は高齢化、或いは後継者の不在等で農業資源の管理不足や農地荒廃が危惧される状態となり、全農業を受託する営農生産組合を平成18年度設立、平成20年度には法人化(ファーム上ゲ)を立ち上げ全農業を管理、平成19年度からこの制度を有効に活用して、農家、非農家を含め連携をとりながら地域保全に取り組んでいます。

◆ 活動内容等

農業法人ファーム上ゲを主力として中山間直視、農地、水環境向上活動と一体となり農地保全に取り組んでいます。又地域の環境・美化を守るため自治会等の協力を得て農村環境向上に貢献してもらっています。



◆ 効果

取り組み前は、当地域の難問でもある野猪被害による農地保全の管理又2つのため池の保守等、特定の人でおこなっていたが、この対策を導入したことにより地域住民全体で守っていこうという意識が高まってきたのではないかと考えています。



◆ 将来の展望

今後、上ゲ地域の貴重な資源を有効に活用し、次の世代へ繋ぐため本対策を有効活用して、地域の特徴を生かした特産物等の開発、又集落を通る人の目を楽しませる景観植物の栽培等、地域住民一丸となり活動していきたいと思えます。

集落の農地は集落で守る

だいよんのうくのうちほぜんかい
組織名 第4農区農地保全会

位置：長門市三隅

対象面積：48.7ha

◆ 地域の現状等

当地域は、長門市の北東部に位置し県営三隅地区として、昭和50年に事業完了しています。農業者だけではどうしようもない状況が進む中、自治会、中山間集落、子供会も含めた地域住民も一緒になって「集落の農地は集落で守る！！」を合言葉で活動を行っています。

◆ 活動内容等

水路、農道、ため池への施設改修及び補修は、施行業者へ発注し、水路の泥上げ等については共同作業で実施しています。また昨年は試行的に防草シートの被覆を行いました。

環境活動は、農道・水路脇に花(ヒマワリ、コスモス)を植栽し、近年急増している外来種を駆除したり、毎年活動しているクリーン活動も子供会を中心に実施しています。



◆ 効果

保全会が設立され農地や農道または水路など地域資源は地域の住民で守るという名のもとに農家のみならず自治会や子供会、消防団などたくさんの方々の協力により活動ができている。

◆ 将来の展望

今後も農業を取巻く環境は更に厳しくなることが予測されるため組織の統合、再編に向けた法人組織や近隣組織との検討を視野にいれながら、作業機械の導入、暗きょ排水の整備、草刈りの労力軽減として防草シート等の活用をしていきたいと思ひます。

「安全・安心な農産物」を目指して JGAP 取得

組織名 にじょうくほちくしげんほぜんたい
二条窪地区資源保全隊

位置:長門市三隅下二条窪集落 対象面積: 10.1ha

◆ 地域の現状等

当地域は、ほ場整備事業三隅地区として、昭和50年に着手し事業完了した地域であり国道191号線三隅バイパスを縦断し南から北に向け流れ本流の三隅川に注いでいて、東西が山の迫った南北に細長い谷間の集落である。

しかしながら水路・農道等施設の老朽化が進行し維持管理に支障をきたしているためそこで、平成19年度よりこの対策を有効に利用して農業生産資源の保全に向け農家・自治会・婦人部と連携をとり保全活動に取り組んでいます。

◆ 活動内容等

農用地周辺の整備を重視

農用地周辺の雑草除去

水路・農道の整備

景観作物による「美しい、華やかな、健康的な集落」作り



◆ 効果

本事業を取り組みにより活動にも積極的に参加し、構成員の一人一人が農地は自分達で守るという認識を持つようになり、施設等への花壇植栽には紫陽花を植え、農用地には毎年蕎麦を、植えることにより農村環境向上活動が出来るようになった。

◆ 将来の展望

「自分の農地は、自分の農地ではなく、法人の農地であって、法人の農地は、全部が自分の経営農地である。」を掲げ地域一体となって農地の保全・整備していきたい。